平成２９年度　第１回千葉市青少年センター運営審議会議事録

１ 日　時

平成２９年７月２５日（火）　１３：３０～１４：５０

２ 場　所

千葉市南部青少年センター ２階 会議室

３ 出席者

（委　員）

佐々木会長、小山副会長、

池田委員、石川委員、白井委員、西田委員、中村委員、遠藤委員

（事務局）

井谷所長、椎名所長補佐、川崎主任技師、田島課長補佐（生涯学習振興課）

４ 議　題

（１）平成２８年度事業報告について

（２）平成２９年度施設運営方針について

（３）平成２９年度事業計画について

５ 議事の概要

（１）平成２８年度事業報告について

施設の利用状況、主催事業の実施内容等について報告し、承認された。

（２）平成２９年度施設運営方針について

施設運営方針を説明し、承認された。

（３）平成２９年度事業計画について

主催事業の計画を説明し、承認された。

６　会議経過

（１）平成２８年度事業報告について

井谷所長より、資料 P1～7、P11～14 及びパワーポイントの資料を使い、平成２８年度の施設の利用状況、主催事業の実施状況等、川崎主任技師より施設の管理について報告した。

（佐々木会長）　質問、意見等はあるか？

（遠藤委員）　高校生と一緒に作る科学工作講座で、千葉工業高校と連携をしているが、かなり前から始められているのか。

（井谷所長）　平成２３年から今年で６年目となる。校長先生・教頭先生はじめ非常に協力的で、担当の先生の指導と、化学系の生徒が受講生ひとりひとりについて支援してくれる。本年度実施した講座終了後のアンケート結果も全員が「大変満足」という結果であった。

（佐々木委員）　高等学校や企業等との連携もしており、職員の地道な活動が実っていると思う。

（遠藤委員）　ゆめチャレンジは２日間実施しているが、中身は同じプログラムを２日間やっているのか。

（井谷所長）　当センターを利用している団体の皆様に９月から出演の募集をかけ、演劇や音楽の団体に参加承諾をいただき、実行委員会を立ち上げ、その中でプログラムを決めている。準備の段取りや仕込みの関係もあるので出演者の都合の良いようにしている。２８年度は１０団体で、前年度は１３団体の出演があった。

（佐々木会長）　平日ではないので、土曜がいいとか日曜がいいとかはないということで、参加している団体も運営に携わっている人に協力しながら参加しているということですね。

（井谷所長）　実行委員会を中心に調整していただいている。また、淑徳大学との連携・協力をいただいており、今年度で５年目になる。大学側も受け入れ態勢が出来ており、「ゆめチャレンジ」の運営を支えていただいている。

（佐々木会長）　平成２８年度事業報告について、承認される方は挙手を。

【全員一致で承認された。】

（２）平成２９年度施設運営方針について

井谷所長より、資料 P8～9 により、施設運営方針について説明した。

（佐々木会長）　意見・質問等あるか？

（白井委員）　施設運営の重点目標の他機関や団体との連携の強化とあるが、具体的にどのような団体と連携をしているのか。

（井谷所長）　学校や生涯学習センター・公民館と連携し、生涯学習センターの「学びの森」というパンフレットにセンターで主催される事業の掲載をしてもらっている。小中学校へは開催講座等のチラシ等を配っている。企業では、東京ガス（株）、ヤクルト（株）、またＮＰＯ法人サイエンスの会、千葉市国際交流協会の協力を得て各事業を実施している。

（佐々木会長）　関係機関とうまく連携して各事業をやっているということですね。

（佐々木会長）　運営方針・事業計画について、承認される方は挙手を。

【全員一致で承認された。】

（３）平成２９年度事業計画について

井谷所長より、資料 P10 及びパワーポイントの資料を使い、平成２９年度の事業計画について説明した。

（佐々木会長）　意見・質問等あるか？

（小山副会長）　千葉工業高校との連携ということですが、私は学校評議員で千葉工業高校へ行っている。その評議委員会の中で、ロボットの講座が映像で流されていた。ロボットを作っている映像とか、小さいロボットでロボット対戦する映像とか、子ども達はとても喜んでいた。そういうものは面白いのではと思ったので、３０年度に向けた企画としてはどうか。

また、宮崎公民館で高齢者対象になるが、スマホの活用術が人気と聞いた。年代別にみると６０代から７０代で６５％の「わくわくカレッジ」の年代に入っているので、３０年に向けてやってみてもいいのではと思った。

（井谷所長）　千葉工業高校のロボットについては、情報提供ありがとうございます。高等学校に確認し相談したいと思う。

（小山副会長）　校長先生も色々なところに出て千葉工業高校を宣伝したいという思いがある。千葉工業高校の生徒は一生懸命子供たちに教えていた。教え方も丁寧で面白かった。

（井谷所長）　わからないところを丁寧に教えてくれるので、センターの講座でも全員が「非常に満足した」という回答をしているのだと思う。

（石川委員）　昨年の「ネットラインスマホ青少年の現状と課題」は、親が対象か。

（井谷所長）　親を含めた大人が対象で、青少年をとりまくスマホの現状と対策という事で行った。２年に１回開催する講座で、２６年度は青少年の非行問題について、女性の警察官の方にお願いした。２８年度スマホに潜む危険性という事で実施したが、市政だより等による応募参加は少なかった。

（石川委員）　この講座はいいと思う。私たちが子供に切符の買い方とかを教えたくても、親がスイカやスマホを持たせて、現金の使い方も私たちとは違う。

（佐々木会長）　現金がなくてもなんでもできてしまう。カードがあれば何でも買える、そういう意味ではそういう状況の中で実際どうしていくか。センターの事業も６５歳以上の要望もあるし、なかなか難しい。そのような中で、さぐっていってみようというものがあればやっていったらどうかと意見なので、センターとして工夫していただきたい。

（中村委員）　意見となりますが、蘇我小学校も子どもたちが参加しているものも数多くあると思う。在学生青少年対象の「ときめきサタディ」「サマーチャレンジ」は年間通して様々な活動を企画実行しているのがわかる。ありがたいと思っている、今後もいろいろな企画を考えてもらえればと思う。

施設の利用状況を見るとなかなか小中学生減っていて、センターの立地等考えると全市的に人を集めるのは難しいと思う。その中で地域に根差した青少年の健全育成のための事業展開していることがよくわかる。小中学生は生活実態を見てみると非常に忙しい。スマホのゲームは小学生でも６割から８割が持っていると言われているし、テレビゲームの普及、また小学校中学年から塾に行ったりしている。最近は不審者等の問題もあり、安全面の問題から子どもが自由に動けないという中で、

利用を増やすのはなかなか難しいと思う。
　それぞれの企画に確実に子供たちが参加しているので今後も工夫していただき活動を充実させてもらいたい。

（佐々木会長）　２９年度事業計画について、承認される方は挙手を。
【全員一致で承認された。】

（４）その他
　１１月に任期満了に伴う委員の改選があり、引き続きお願いしたい旨伝えた。
また、議事録の確定について、会長に承認してもらうことを確認した。